



おぢかこうみんなんだより

第175号 令和3年2月1日発行

黒島でハカマカズラ発見!!

昨年の暮れ黒島の方から、「ハカマカズラを見つけましたよ」という情報をいただき、さっそく探しに行ってきました。黒島展望台に向かう階段を上り、金毘羅様のとなりを抜けて、公衆トイレへ下りながら周りのカズラをていねいに確認していくと「あった、あった、ありました。」南側の木にからみつくようにひっそりとハカマカズラが・・・その名のいわれのように、葉の先端が二つに裂け袴のように見える特徴があるので、まちがいありません。

ハカマカズラは、珍しい南方系の植物として学術的に価値が高く、町内前方郷木場の長寿寺境内の株は、平成26年に町の天然記念物に指定されています。これまで五島列島の生育地の北限は中通島とされていたものが、小値賀島内でも見つかったというのが指定の主な理由です。

後日、再び訪ね周辺をさらに詳しく調べると、新たに数株を見つけました。完全に自生の株です。島内の他の場所でも見つかる可能性を示唆しています。

それにしても、黒島展望台周辺は松枯れの影響でずいぶんと明るく見通しが良くなっていました。展望台からは、小値賀本島をはじめ、西側の島々、遠く五島列島まで見渡すことができます。(松枯れは良いことではないですが・・・)

ウォーキング、散歩コースにどうぞ。



黒島展望台



先端が裂けた葉



展望台からの眺め



元気なハカマカズラ

節分には豆をまいて鬼を退治しましょう!

昔の暦で一年の始まりである立春(今年は2月3日)の前日、節分(今年は2月2日)です。昔から一年のしめくくりの日(大晦日)に、来る新年に向けて厄や災難をお祓いする行事が行われてきました。これが豆まきの由来です。



まくのは、炒った大豆(福豆)

もともと日本では、穀物などに邪気を払う力があると考えられてきました。地域の神事(池祭りなど)、お米をまくのを見たことがあります。豆まきはふつう大豆を使いますが、米や麦と同じくらい重要な穀物として私たちの暮らしを支えてきました。大豆の粒の大きさやその栄養価などから、魔除けや生命力にあふれる霊力があると考えられてきました。炒った豆を研に入れ、神棚にお供えしたものを福豆と呼び、正式にはこの福豆をまきます。(現実には忙しいので、お店で買った豆で十分ですね。)

福はうち、鬼はそと~

さて今年あなたが追い出したい鬼は何ですか?

小さい子どもだったら「なきむしオニ」とか「わがままオニ」とか答えるかもしれません。こども園でも、にぎやかに豆まきが行われることでしょう。がんばってオニたいじしてくださいね。

ところで今年は、いつもの節分と違います。日本全国いや世界中の国々で、「新型コロナウイルス」(COVID-19)という名の鬼が大暴れしているからです。歴史的に見ても私たち人類は、戦争や自然大災害と変わらぬあるいはそれ以上の災難に直面しています。

今年はみんな、「オニはそと~」「コロナ、くんな~」と声をそろえて豆まきしませんか。



~図書館からのご案内~

◆ 新しく入った本 ◆ ※購入本の一部をご紹介します!

[一般書]

- ◆「自分」を生きる
- ◆ 沢沢栄一伝
- ◆ 世界から消えゆく場所
- ◆ 新しい日本人論
- ◆ 業務改善の問題地図
- ◆ ローリングストックで! 防災にそなえるレシピ
- ◆ 温暖化で日本の海に何が起るのか
- ◆ 人生で大事なことはみんなゴリラから教わった
- ◆ 「そろそろ、お酒やめようかな」と思ったときに読む本
- ◆ 60過ぎたらコンパクトに暮らす
- ◆ きほんの平結びでマクラメが上手になる
- ◆ 野菜たっぷり大量消費レシピ304
- ◆ 幻夢
- ◆ 雪に撃つ
- ◆ そして、海の泡になる
- ◆ 雪のなまえ
- ◆ 湖の女たち

[坂東眞理子]
[井上 潤]
[トビス・イルラ]

[沢渡あまね]

[山本 智之]
[山極 寿一]
[垣淵 洋一]
[藤野 嘉子]
[蔭山はるみ]
[阪下 千恵]
[上田 秀人]
[佐々木 譲]
[葉真中 顕]
[村山 由佳]
[吉田 修一]



[児童書]

- ★ 絵でさぐる音・光・宇宙
- ★ ウイルスって何だろう?
- ★ プロから学ぶ修理ずかん(1)
- ★ へんくつさんのお茶会 [楠 章子]
- ★ 彼方の光 [シリー・ピア川]

[絵本]

- ★ きょうは おかねがないひ
- ★ おともだちになってくれる?
- ★ ノラネコぐんだんケーキをたべる

遊遊句抄

1月【兼題】 冴ゆる(さゆる) 寒椿(かんつばき) 自由題

西沖に漁火冴えて鳥近し	冴ゆる月兎も跳ねて中空に	尿と戦時下の武器にはされず冴ゆる鐘	戦時下の武器にはされず冴ゆる鐘	風花にはしゃく背中や婆二人	触れた手に我の手添えて風冴える	漁始船と海とへ御神酒上げ	月冴ゆる庭の草木も色なくし	漁始船と海とへ御神酒上げ	枕辺の残夜の闇に鐘冴ゆる	数刻も降り積む雪を眺めけり	願ひ増え浦から仰ぐ初野崎山	一万歩足音刻む去年今年	郷の灯の消へて天心月冴ゆる	人里の屋並みは古し寒椿	居間の壁静帆のフオトの寒椿	売初めの色も鮮やか丹精菜	石拾う馴染みの海辺風冴ゆる	初場所や難読四股名新力士	頼もしく祝の言葉成人の日	洗礼し頬に垂れるや寒の水	苦の訳を問ふ友の背に月冴ゆる	生きてるか雪の日の電話生きている	
百笑	増円	小梅	利石	一穂	月歩	値賀助	虫砂男	紫紅	香松	松月													

※先月号の遊遊句抄に誤りがありましたので次の通り訂正いたします。 「3蜜」→「3密」

Vol.02 中村地区(旧平井商店前四差路周辺)

小池の十字路をそのまま東へと進み小値賀町消防団4分団の詰所前を過ぎると、小さな森に抱かれたお堂が右手に見えてきます。「一念寺」です。『小値賀町郷土誌』によると、開山時期は不明ですが、もともとは久翁昌公という人が開いた臨済宗のお寺だったそうです。

開山後、間もなくして無住(和尚さんが常駐しない状態)となり、木場の長壽寺の管理下となりました。その後、明治4年(1871)には廃寺になりますが、お堂は明治31年(1898)に笛吹と中村地区の方々の寄付によって再建され、幾度かの修復や改築を経て、現在に至っています。お堂内の正面には無量壽仏(阿弥陀如来)立像と坐像、向かって右脇には開基者である、久翁昌公のご位牌と三界万霊の木簡、左脇には弘法大師坐像が安置されています。無量壽仏(阿弥陀如来)立像は開山以来のご本尊と考えられます。廃寺となった後もお堂を放棄せずに再建し、本日までご本尊を大切に守り伝えている地域の皆さんには本当に頭が下がります。

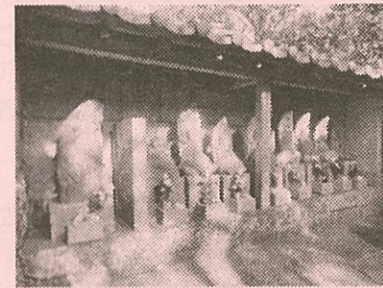
お堂の外には中村地区植松の墓地から移された久翁昌公の墓石とともに、町内8箇所に分けて祀られている四国八十八箇所巡礼に見立てて祀られた、石仏8体が安置されています。周辺を見回してみると、ふと、NPO法人おちかアイランドツーリズム協会が手掛ける「小値賀しまみちさんぽ~八十八カ所めぐり編~」のスタンプが目にとまりました。伝統的な風習や営みを大切にする小値賀らしい観光の形だなー、と温かい気持ちになりました。なお、一念寺の縁起については『小値賀物語』でも紹介されていますので、ご覧ください。

一念寺を出てさらに150mほど東へと進むと中村バス停がある四差路(旧平井商店前)に出ます。ここにも貴重な文化財があります。「くよう様」と呼ばれ、地域の方々によってお祀りされてきた石碑です。文化財としての正式名称は「阿弥陀三尊仏板碑」。阿弥陀三尊とは仏教における仏像安置型式の一つで、阿弥陀如来を中尊とし、左脇侍に観音菩薩、右脇侍に勢至菩薩を配します。観音菩薩は阿如来の「慈悲」、勢至菩薩は「智慧」をあらわす化身とされます。

この石碑の表面には阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩を一文字で表現した梵字が描かれています。石碑自体の制作時期は15世紀末から16世紀初頭と大変古いものです。もともと近くにあったものが昭和46年(1971)、道路工事の支障になったため現在地に移されました。『小値賀町郷土誌』には移転の際、石碑の下から櫛と鏡が出てきたとありますが、地元の方からは、なにも埋められてなかったという意見もお聞きすることがあります。埋納の品はあったのか、否か。大変気になるところです。というのも、この種の石碑は墓石というよりも死者供養のために建てられた卒塔婆としての性格が強く、供養者に由来するものを埋納することが多いからです。では、この石碑の供養者とは、本当に櫛、鏡が埋納されていたのであれば、やはり高貴な女性…。ひょっとして中村のお姫様??尋ねてみても、くよう様は沈黙です。(当然か。)(文:平田賢明)



一念寺のお堂



久翁昌公の墓石と八十八カ所石仏



小値賀しまみちさんぽのスタンプ



くよう様(阿弥陀三尊仏板碑)



表面に刻まれた梵字

図書館に来(き)なされ~..

恥ずかしながら、読書とか図書館とかにはまったく縁のない人間でした。小さい頃から、じっとしていることが苦手だったし、家の中で本を読んだりするとフラフラしたり頭痛がしたりするタイプでした。

「愛読書は?」「好きな作家は?」とか聞かれても答えに窮してしまうので、誰かと話しても、そんな高尚な話題にならないよう心がけました。心配だったのは、就職試験。面接で聞かれても、「へっばくばゆうち、えらかそう..」と当時映画化された「野生の証明」と「森村誠一」を準備していたのに、面接本番では聞かれませんでした。(がっばり..)

小値賀にUターンして、困ったのは雨の日の過ごし方。外での農作業はできず、わら仕事は昔の話。家の掃除や片付けをするにしても、朝から晩までというのはさすがにくだびれます。時間を持て余し、ほかにやることも見つけられず、思いあまって?行ってみたのが図書館でした。

最初に借りだしたのは、神道や仏教や潜伏キリシタンなどの宗教関係の本。私の住む地域では行事の多くが神事関係だし、お寺関係の行事もいろいろとあります。その頃、野崎島が世界遺産候補でもありました。小値賀に住む以上、興味がない、知らない、じゃすまされないと思ったわけです。

続いて読んだのは、民俗学や歴史書。日本人としての自分のルーツについて、あまりにも無知だと感じていたからです。かの「旅する巨人」宮本常一氏が小値賀を訪れていた、ということを知ってとても感激しました。

いろいろと本を借りて読みだすと面白く、自分の世界が少しずつ広がっていくようでした。「知らないことを知る喜び」という学びの基本をいまさらながら実感したのです。

図書館は、なんととってもタダというのがいい。何冊借りて読んでも、お金はかかりません。現役の頃は、「本は買うもの」と思っていたし、買ってもほとんど「積んどく」でした。なんとアツタルカことをやっていたのかと悔やまれます。

また、読みたい本についての相談にもものってもらえます。具体的な本の名前がわからなくても、「こんな傾向の本が読みたい」と言えば紹介してもらえます。さらに、「リクエスト」という制度があって、どうしても読みたい本がある場合には、希望することもできるのです。これには、驚きました。町立図書館にない本は、県立図書館(ミライON図書館)をはじめ他の図書館から借りることができます。いくつかの専門書と俳優高倉健に関する本を数冊、ミライON図書館からお借りしました。これも個人負担はありません。

図書館サービスの極みは、「本の宅配便」です。「本は読みたいけど、いろいろな理由で図書館まで行けない」という方のために、本を自宅まで届けてくれるのです。電話で読みたい本を相談するだけで届くし、返却もお任せです。離島の方も、利用できます。なんと便利なサービスでしょうか。「ハオー。きのどっか~。」とか言わずに、どしどし利用していただきたいと思います。私も、配達員の一人です。

他にも、小値賀町立図書館では、さまざまな講座やイベントを開催しています。読み聞かせの会をはじめとして、料理教室、科学工作教室、人形展、折り紙展、平和展、震災展など多彩です。それぞれ、出かける価値のあるものばかりです。

先達によると豊かな人生のための学びは、人、旅、本と言われます。そのうちコロナ禍でも自由に接することができるものは、まさに本。図書館の出番です。本を通して、時空を超えた旅に出かけましょう。

町民のみなさん、図書館に来なされ~。マッチョキマース。

